

サーファクテン[®] 気管注入用120mg 専用ディスポーザブル採液針Pの使い方

監修 日本未熟児新生児学会 医療器材の安全性確認委員会 (案)

医療過誤防止を目的としますサーファクテン気管注入用 120mg 専用ディスポーザブル採液針 P をご提供致します。

現在まで、誤ってサーファクテンを血管内等に注射したという報告はありませんが、日本未熟児新生児学会からの要請を受け、医療過誤防止をより一層進めるために、ニプロ株式会社と共にサーファクテン専用の採液針を開発致しました。

サーファクテン懸濁液をバイアルから採液する際には、本品をカテーテルチップシリンジに接続してご使用ください。

本品はプラスチック製でバイアルのゴムには刺すことができますが、人には容易に刺さらないようになっています。また、懸濁しきれないサーファクテンの小塊がシリンジに吸い取られないように内部にフィルターが付いています。

本品は弊社医薬情報担当者を通じてご提供しますのでお申し付けください。



ディスポーザブル採液針 P (5 本入) 製造販売 ニプロ株式会社

【本品をご使用いただく際のご注意(本品の添付文書の使用上の注意もご参照ください)】

●本品とシリンジの接続性

- ・カテーテルチップシリンジの種類によっては、本品との接続性がやや弱いものもあります。使用時には強く接続した上で、接続状態をご確認の上ご使用ください。
- ・サーファクテンを採液する途中で、本品をカテーテルチップシリンジから一旦取り外すと接続部にサーファクテンが付着して接続強度(本品とカテーテルチップシリンジとの密着性)が著しく低下することがありますのでご注意ください。

●禁注射シール

- ・サーファクテンに添付しております「禁注射」のシールを、カテーテルチップシリンジに貼り付けてください。ミルク等との取り違い防止に有用です。

●本品をバイアルに穿刺する時

- ・本品の外径は金属針より大きいので、バイアルに穿刺する際には、金属針より大きな力が必要となります。針刺し事故防止のためにもバイアルを台の上において、本品をバイアルのゴムキャップに対して垂直に穿刺してください。

●使用後の廃棄

- ・本品の使用は 1 回限りとし、使用後は直ちに廃棄してください。

●本品の保管

- ・本品の水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避け、室温で保管してください。



田辺三菱製薬株式会社
大阪市中央区北浜2-6-18

※裏面もご覧ください。

サーファクテン気管注入用120mg専用ディスポーザブル採液針Pの使い方

● 準備するもの

サーファクテン気管注入用120mg、生理食塩液、カテラン針、注射用シリンジ、ディスポーザブル採液針 P、カテーテルチップシリンジ、禁注射シール、滅菌細管（誤接続防止ソケット付き）



1 生理食塩液を注入後、バイアル内の陽圧を少し下げた後からカテラン針を抜いてください。



2 必ず禁注射のシールをカテーテルチップシリンジに貼り付けてください（ミルクとの取り違い防止にもなります）。



3 カテーテルチップシリンジとディスポーザブル採液針 P をしっかり接続します。



4 バイアルを台の上に置き、ディスポーザブル採液針 P をバイアルに垂直に穿刺してください（バイアル内が陽圧になっていると急激にシリンジの押し子が動くことがあります）。



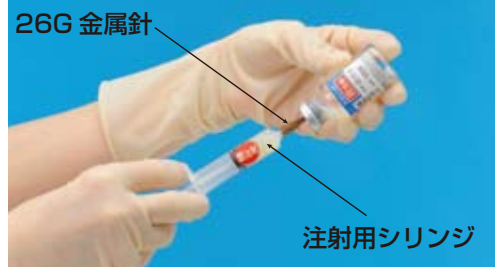
5 ディスポーザブル採液針 P が抜けないように注意してサーファクテン懸濁液を採液します。



6 採液後、ディスポーザブル採液針 P を外し、滅菌細管（誤接続防止ソケット付き）に接続して投与してください。



● 従来の方法



サーファクテン懸濁液を採液時に、26G 金属針を使用します。

